



発行所

兵庫県精神薄弱者愛護協会
兵庫県育成会施設保護者協議会
〒654

神戸市須磨区友が丘1-1

発行責任者 金附 洋一郎

印刷所 交友印刷株式会社

〒652

神戸市兵庫区水木通9丁目1-34

電話 (078)576-6161

「在宅福祉」によせて

兵庫県精神薄弱者愛護協会副会長

三田谷治療教育院 院長 堺 執

「施設福祉」から「在宅福祉」へ世の中は、大きくその流れを変えようとしています。

「在宅」がどのようなすれば、日本の社会に溶け込み定着していくのか私は大きな期待と同時に不安と疑問を抱いております。

その理由としては、「在宅」のねらいとするものと、現在の社会の大きな流れ、価値観とは相当なずれがあるように思われるからです。

簡単にいえば、重度の障害者や要介護のお年寄を家庭から離し、集団で生活させてきたものを、「在宅」は個々の生活の場や欲求を大切にしてい、生涯を全うできるようにしようとするものでしょう。

考えてみますと、私達は、生れた時から、家庭で、学校で企業で「今日より明日を」「進歩発展」「よりよく」「損・得」という社会通念の中にどっぷりと漬って生活してまいりました。少数派の手のかかるものは避けられ、おしのけられてまいりました。夢（無意識）の中までもそのような感覚が働いているようです。まさに、合理主義から功利主義の世

の中になり、経済大国になりました。しかし、皆さん、ほんとうに幸福感をもって日々生活している人は、一体どれ程おられるでしょうか、ごくごく少数のようです。

さて、「在宅」は、一人一人が実践者で身代わりはききませんから「弱さ」や「痛み」を互に担いあわねばなりません。今の社会通念が逆転するかもわかりません。そのことをまずお互い覚悟しておきましょう。

「お金持」は、その「痛み」をお金で決済しようと、「私は相応の負担をしている、あとは行政か誰か専門家がうまくやればいいだろう……」などと考えるかも知れませんが日本が、このまま豊かな経済大国でありつづけることはできません、それは、過去の歴史が物語ります。

ところで「逆転の発想」は一体どこから考える糸口をみつけたらよいのでしょうか。私はこう考えます、ごく身近にありながら「もの言わぬもの」食物や水「無意識なもの」空気や植物を自分の意識の中に入れてみることに、そうすることによって、

自分が生きていることがふしぎなことと思え、周囲のもの人間以外のものによって生かされている、といった大きな循環の中の一つにしかすぎないことがわかります。人間が改めて「共生」などという前から、そのようにしてもらったのです。

最近「次第にそう思うようになってきた」ということを大切にしています。それは、長い年月を経て、しいにはじめの考えが変化してきた、思いもよらなかった考えに時間と経験とが至らせてくれるというものです。

「在宅」は、実に奥が深く、いではできないことのように思いますが、しだいにそうなっていくように積極的に取組みつつも、私達の世代で不可能ならば次世代につないでいくというゆつくりと長い目標設定にしてはどうでしょうか。

現代は子供を保育所にあずけて共働きするのが社会通念になっていますがそのことを修正したり判定するのは、その子供達が親になったころまで待たねばなりません。

「在宅」が幸福の追求につながるならば、ゆつくりとした日々の努力の中にこそ「幸福」がかくされているように思えてなりません。

平成二年度

「愛護の集い」

平成二年九月二十六日 (火)
神戸「舞子ビラ」

もみじ園々長 大村 寛

本年は特に精神薄弱者福祉法制定三十周年の記念すべき大会として初めて 県愛護協会・県育成会・県育成会施設保護者協議会の三団体が主催することになったことは、極めて画期的なできごととして嬉しいことです。

。記念講演

「施設今昔」

社会福祉法人大木会 一麦寮々長

吉 永 太 市 先生

。発題

「育成会の現状と課題」

育成会事務局長

藤井 勲

「これからの地域福祉に向けて」

宝塚市手をつなぐ親の会々長 大野セツ子

「施設互助会の拡大をめざして」

精神薄弱児者施設入所者等互助会副理事長

福田和臣

「福祉八法の改正と今後の課題」

民生部障害福祉課

黒沢 中

昼食時には三恵園「楽団ボケット」の器楽演奏「おもちゃのチャチャチャ」ほかのアトラクションもあり、三〇〇名近い参加者で舞子ビラの会

場一杯の盛会に終わった。

更に記念講演に、この道の先達としてご苦労下さる一麦寮々長「吉永太市先生」にご足労願ひ、心あたたまるご指導をいただいたことは、特筆に値しました。

◎大会宣言

本年は、国連「障害者の権利宣言」の十五周年・心身障害者対策基本法制定二十周年・加えて私たちに一番身近な精神薄弱者福祉法制定三〇周年の記念すべき節目の年に、初めて愛護協会・育成会・保護者協議会の三者が一堂に会して、兵庫県「愛護の集い」を開催できましたことは精神薄弱者の福祉増進にとって極めて有意義な画期的な出来事と思えます。

今後は、この人たちの生涯にわたる安定した生活の保障と自立的生活を援助するための在宅サービス、これに並行しての施設福祉サービスの均衡ある処遇の確立をめざし、相互協力して当面する諸々の課題について関係当局に要望していくことを宣言します。(感謝状 6Pにつづく)

神戸地区

活動状況報告

私達神戸ブロックは神戸市精神薄弱者愛護協会として活動しています。が、平成二年五月十一日に六甲荘で総会を開き、今年度予算と事業計画の決定並びに前年度予算の承認を行いました。

五月二十七日(日)にはユニバー記念競技場で陸上競技を、六月十七日(日)には「しあわせの村」温泉センター体育館で卓球を、七月二十二日(日)には同じ温泉センターのプールで水泳を第二十九回神戸市中心身障害者スポーツ大会として、神戸市等四団体で主催し、各施設とも多数の園生が参加し、大いに競い楽しみながら親睦を深めました。

その間、六月二十一日(木)二十一日(金)の一泊二日で施設長研修会を催し、十六名参加して舞鶴市にある身体障害者療護施設「こひつじの苑舞鶴」を見学して施設長の徳川先生のお話を聞き、認識を深めました。

九月七日(金)には唐川福祉基金の助成を受けて、兵庫県民会館九階ホールで「映画の集い」を催し、「ダンプ」と「ピノキオ」の二本を午前と午後の二回上映し、親子約千人あまりが観賞して楽しみました。

十一月三日(土)から五日(月)

に渡って「しあわせの村」内各施設で実施された「こうべ福祉フェア」にも、各園パネル展示や作品展・バザーに参加して施設の活動をPRしました。

十一月十六日(金)にマイクロバスを借りて職員研修会を行ったところ、定員いっぱい二十五名の参加があり、小野福祉工場・起生園・青野ヶ原病院を見学して、各施設の職員が紅葉映える秋の一日親睦を深めました。

十二月九日(日)に「しあわせの村」多目的運動広場及び村内コートを使った第三回ふれあいロードレース大会を四団体が主催して行い、多数の参加があり盛況の内に終えることが出来ました。

平成三年一月十七日(木)には六甲荘に二十一名の施設長と来賓多数の参加を仰いで、新年意見交換会を開き、最近の福祉施策の動向や各園の現況について活発に意見交換を行い、施設の果すべき役割りについて探りました。

このあと、二月二十五日(月)に年度末施設長会を開いて、平成二年度事業の反省と平成三年度事業の計画について話し合う予定にしており、三月九日(土)にはしあわせの村でミニサッカー大会を開きます。

(副会長 丸尾宗茂)

阪丹但地区

活動状況報告

平成二年度の阪丹但地区事業計画を策定するにあたり、地域的に広範囲であり施設種別も多岐にわたる中で、可能なかぎり大勢の参加による研修会を主眼とした計画を推進することとしました。このような主旨のもとに五回の研修会が開催され、福祉のしごとに関わる者としての目標は達成されたと、考えております。

第1回 6月25日(月)

芦屋市 三田谷治療教育院

・平成元年度会計 事業報告

・阪丹但地区内施設間職員交換研修の実施、すでに数ヶ所の施設で実施され、効果を上げている。

・児童入所施設の充足率低下の解決策、定員縮小と地域性を生かした特色のある施設処遇の必要性。

・ボブラの家授産施設の併設、開所予定は平成3年4月1日。

第2回 7月26日(木)

西宮市 いずみ園

・措置外児の外來相談事業に対する県単費補助の要請。

・通所施設にも重度加算費を。

・個性のある研修会の開催。

・「愛護」誌を通じて施設と家庭との連携を密にすることで、定員割れ等重要課題の解決と経営改革。

第3回 9月27・28日(木・金)

西宮市すずかけ作業所

・施設内職員研修、日常の職員間の会話が研修のテーマに進展する。

・職員の確保、現代の若者の価値観の相違によるもので、解決策?

・通所施設職員配置基準の見直し。

第4回 11月6・7日(火・水)

大屋町 おおや作業所

・自立訓練施設さつきホームの見学施設と保護者(世話人)の積極的な取組と、努力、地区の中心地に位置するが、地域の人々の理解と協力により、成功している。

・金附会長の講演

「これからの福祉施設」

互いの変化を認め共に生きる。

・現在世界で環境破壊が叫ばれているが、物を言わぬもの(空気、水、森林等)を大切にしなければ結果が現在の状況である。

第5回 1月28日(月)

篠山町 多紀郡通園センター

・多紀郡通園センター見学

・講演 恩島福祉会 理事長。あとがき

「援助」の究極的な目標は自己実現であります。その人なりの力いっぱいいの生き方の結果として、自らが心満ち足りて、人間らしくよく生きたと自分の人生を評価できる境地に向って援助すること、あります。

(会長 大久保茂男)

播淡地区

活動状況報告

◎職員代表者会

第一回・四月十八日(水) 姫路自治福祉会館・役員選出・播淡地区施設親善運動会・合同一泊研修・職員研修について・(事故・運営上処遇上の課題)

第二回 五月十六日(水) 香翠寮・施設見学・運営上処遇上の課題について・播淡親善運動会・職員研修について・各部会実施計画・情報交換

第三回 七月四日(水) ルネス・花北施設見学・播淡親善運動会総括・運営上処遇上の課題調査について、各部会現状と計画

第四回 九月十一日(火) 木の根学園・施設見学・各部会現状と課題・播淡職員親善バレーボールについて・職員研修会検討・情報交換

第五回 十一月十五日(水) 赤穂精華園・施設見学・各部会現状と計画・播淡職員親善バレーボールについて職員研修会検討

◎各部会

・生活部会(担当・栗の木荘)

七月二十三日(月) もみじ園・協和学園・藤本次郎先生(ルネス・花北)講演

十二月五日(水) 栗の木荘・三原博光先生(旭川荘・厚生専門学校)

を囲んでケース検討会

・作業部会(担当・三木光司園)

六月七日(木) 津山「みのり学園」見学と施設長「牧野弘典先生」講演

三月中旬(予定) 福祉工場完成後見学を兼ねて(三木光司園)

・健康部会(担当・播磨園)

八月二十九日(水) 上月リバーサイド、研修、施設見学(ハイムゾネ)

一月下旬・二月上旬予定 播磨園討議中心、部会として意見のまとめ

・保護者部会(担当・あすなろ学園)

十一月二十二日(木) 高砂青年の家、講演「思い出している」植杉安夫(あすなろ会理事長) 保護者職員合同研修

・調理部会(担当 愛心園)

七月十二日(木) 上郡中央公民館研修「食事環境について」調理実習

平田調理専門学校平田さかろ校長

十一月十三日(火) 姫路循環器病センター、病院の概要、病院食のシステム、内容について

二月十三日(水) 姫路自治福祉会館、二年間のまとめ 今後の取り組み

・事務部会(担当 いちよう園・ぎなんな寮)

八月二十七日(月) 福祉センター

討議

播淡地区では、昭和五十九年地区の活動が始って以来、職員代表会を

組織し、施設長会とともに企画・運営にあたってきた。

六つの部会はそれぞれ施設担当として二年交替になっている。

会場は各施設でそれぞれに開催して、交流の少ない施設職員の交流の場になっている。

職員代表者会は企画運営のため、親善委員会・委員長苗村陽子（栗の木荘）委員清水哲典（かしのきの里）中川裕美子（愛心園）竹内琢磨（三恵園）施設親善運動会、職員親善バレーボール大会を担当

研修委員会、委員長内井一也（いちかわ園）委員近藤耕治（木の根学園）山下敏博（三木精愛園）荒川鉄也（あかりの家）が研修面を担当
職員代表者会々長鎌谷一志（香翠寮）を中心に計画的、積極的な動きのなかに新しい時代への息吹きが感じられる。

松本雅也前職員部会長（旧三恵園職員）は昨年四月退職して、小規模作業所「ゆめさき舎」を夢前町前之庄に開設してご苦労がつづいている。

（会長 大村 寛）



更生施設部会報告

平成二年度の更生施設部会は、年末もおし迫った12月12日、姫路市の「ルネス・花北」で開催された。年末という悪条件にもかかわらず、県下「47施設のうち32施設、38名という多くの出席を得、終始あたたかい雰囲気の中で、しかも熱心に情報交換や討議が行われた。

今回は昨年と同様、特別な協議題は設定せず、各施設のかかえるさまざまな問題点を出し合って、それを整理しながら部会としての今後の方向を探っていくという趣旨で、午前中は居住・通所に分かれて分科会を、午後は「ルネス・花北」の施設見学に続いて全体会を持ち、午後三時頃、盛会裡にその幕を閉じた。

分科会、全体会の概要は次のとおりである。

分科会1（居住施設部会）

ここでは、グループホーム、高齢化・重度化・滞留化の対応、年金と遺産相続、職員の資質向上と養成、愛護協会と関係諸団体との連携などの諸問題が提起されたが、そのあと・職員に関する問題
・施設の根本的な見直し
・更生部会の今後のあり方

の三点について話し合いが続けられた。その内容を要約すると

- 1、障害の重度化に伴って、職員の負担が著しく増加した。更生施設の職員の定員増が緊急の課題である。
- 2、結果的に授産と更生が同じ中味になっているのに、法的には依然扱いが違っている現実をどうするか。
- 3、この際、授産・更生を含めて、施設とは何かという原点を明確に押さえることが大切である。
- 4、更生施設部会は①情報を交換する ②共通理解をはかる ③行政に対する要望をまとめる等の働きが必要。問題によっては内部委員会を設けて検討してはどうか。

など活発な意見交換があり、最後に金附会長から「愛護協会として、外部にもっとアピールする必要がある。今後、基礎的な積み上げ作業を継続して頂きたい」との助言があった。

分科会2（通所施設部会）

通所施設で特に切実な問題となっている職員の重度加配に関して、昨年度の部会で決めた実態把握のための基準づくりについて、さつき園の碓園長から説明があり、若干の意見

交換のあと、重度加配を実現するために①よりアピールするデータづくりを考える必要あり ②神奈川や神戸のように、自治体の負担で重度加配を行っているところもある。今後、この例にならって運動すべきだというような意見が出された。

全体会

はじめに、陽光園の宇田園長から通所更生施設運営研究会の報告があり、続いて分科会報告、更に①重度加配 ②職員の養成 ③福祉施設の見直し等について意見交換が行われた。①については、まず足元の各市郡町から県・国というように、各関係団体と連携しながらダイナミックな働きかけをすることが必要 ②については、まず施設職員の優遇策を考えるべきである。過日の神戸新聞の記事のように、社会一般にかなりの誤解があるようだが、施設側からも正しいデーターを出して啓発することも大切 ③については、現在、全国的にも福祉とは何か、施設とは何かという問い直しがなされている。

今こそ、授産・更生という法的な束縛をとり払って、それぞれのニーズを原点として今後のあり方を考えるべきだ というような意見が出された。

（更生部会長 中川 透）

第25回施設親善陸上競技大会

第25回兵庫県施設親善陸上競技大会が、昨年十月十九日に明石公園陸上競技場で開催されました。

今大会は、精神薄弱者福祉法制定三十周年記念大会でもあり、参加者全員に参加賞としてキーホルダーが渡されました。当日は、大変好天に恵まれ、県下一〇三施設中五十三施設から二千五百四名が参加し、なかなか素晴らしい大会だったと思います。これも、実行・運営委員や各関係の方々のご協力によるものと、深く感謝申し上げます。

今大会の反省点については、昨年十月三十一日、反省会をもちました結果、何点かありますので、後日、一覧表にしましてお知らせしたいと思います。

陸上競技大会種目別順位

◎ロードレース

〔児童男子〕一位・有本良一（春日学園）二位・波岡健治（あけぼの学園）三位・宮崎充年（上野丘学園）〔成人男子〕一位・井上哲郎（神戸聖生園）二位・柳井誠（かしのきのみ）三位・越中博文（赤穂精華園）〔四十才以上男子〕一位・亀広昭男（赤穂精華園）二位・御所秀治（播磨園）三位・吉本秀満（播磨園）〔児童女子〕一位・重富幸子（春日学園）

二位・二宮貴子（さわらび学園）三位・依藤貴美子（さわらび学園）〔成人女子〕一位・森脇美江（協和学園）二位・守川敏江（宝塚さざんかの家）三位・吉村美代子（自立訓練センター）〔四十才以上女子〕一位・高田愛子（赤穂精華園）二位・大西ふくえ（六甲園）三位・川崎真知子（香翠寮）



◎走り幅とび

〔児童男子〕一位・島本孝（春日学園）二位・清水伸一（赤穂精華園）三位・須原誠（春日学園）〔成人男子〕一位・田中美好（協和学園）二位・出雲義彦（自立訓練センター）三位・三浦満（協和学園）〔児童女子〕一位・海原江美子（春日学園）二位・影山幸栄（赤穂精華園）三位・浜岡一美（三田谷治療教育院）〔成人女子〕一位・山本順子（三

光園）二位・四反田順子（宝塚さざんかの家）三位・大竹由利子（ヨゼフ寮）

◎ソフトボール投げ

〔児童男子〕一位・小笠原正幸（春日学園）二位・米山孝司（ななくさ学園）三位・荒木智広（あけぼの学園）〔成人男子〕一位・東野隆司（三恵園）二位・森藤洋一（ふるさと寮）三位・池田朋広（赤穂精華園）〔児童女子〕一位・田中美穂（赤穂精華園）二位・清水智恵（春日学園）三位・片淵鈴香（三田谷治療教育院）〔成人女子〕一位・姉崎まゆみ（ひふみ園）二位・蔵本の子（ななくさ育成園）三位・藤内美千代（三美学苑）

◎一〇〇メートル×四人

〔児童〕一位・あけぼの学園 二位・赤穂精華園 三位・三田谷治療教育院

〔成人〕一位・もみじ園 協和学園、二位・ひのもと青年寮 三位・赤穂精華園

〔職員〕一位・赤穂精華園 二位・春日学園 三位・ひふみ園

◎二〇〇メートル×五人

〔児童〕一位・さわらび学園 二位・あけぼの学園 三位・春日学園

〔成人〕一位・赤穂精華園 二位・神戸聖生園 三位・自立訓練センター（以上敬称略）

（職員部会長 早川 成康）

職員部会報告

平素は何かと職員部会の活動に、ご協力をいただきありがとうございます。

さて、バレーボール大会ですが、昨年は七月一日が雨天のため七月八日に明石公園バレーボールコートに於いて、10施設（最初参加予定24施設）が参加して行われました。

今年は、体育館を借りて開催する予定ですから多数の施設の参加を期待していますので、よろしく願います。

なお成績は次のとおりです。

▽優勝Ⅱ上野丘さつき会 ▽準優勝Ⅱ樫の木福祉会 ▽第三位Ⅱ赤穂精華園

（部会長 早川 成康）

『施設入所者等互助会』

へのお誘い

昭和六十三年より始まった互助会も 早や三年になろうとしています。現在加入者二、五二五人、八六施設、組織率五六%です

給付件数は一月末現在一五三件 一二人 約千六百七十七万円で、この制度が活用されています。今一度、互助会への御加入をお考えください。

神戸愛護グリーンズ

悲願の初優勝

第八回全国社会福祉野球
野球大会近畿地区予選

ワークホーム緑友 藤原厚之

第八回全国社会福祉軟式野球大会近畿地区予選は、平成二年九月七日久宝寺緑地内野球場で金剛コニー、府社協成人部会（大阪）と兵庫県内愛護関係施設の混成三チーム・計五チームが参加しトーナメントで行なわれた。

兵庫愛護チームが常に全国大会出場へあと一步の所で野望を打ち砕かれていた金剛コニーチームを我が神戸愛護グリーンズ（神戸市内の混成チーム）が第三試合目の決勝戦で倒し第八回目にして念願の初優勝。近畿地区代表として全国大会出場権を獲得しました。

我がチームは打倒、金剛コニー（近畿地区の常勝で、全国大会を制覇した経験を持ち毎年好成績で全国トップレベル）を合言葉に三月からチームを新編成（監督、陽気寮施設長 仲経敬、主将（グリーンホーム 平成 山本忠明）し女性マネージャーの協力も得、厳しい練習とチームワークの良さで共に汗をかき、勝利を掌中におさめました。

全国大会は十月四日、五両日、愛媛県松山市営球場等で、全国の予選を勝ち抜いた十チームが参加して開かれ、地元愛媛県チームが優勝した。

我がチームは兵庫愛護の二チームより婦木選手外三名を補強し、監督の全国大会初出場、初優勝を目標に、ワークホーム緑友より借用しましたマイクロボスで、いざ、松山へ」と和やかに安全運転をモットーに無事到着。全チーム、関係者等が参加し前夜祭が厚生年金休暇センターで行われムードを盛り上げた。



第一試合は山口県チームと対戦、近畿大会同様、足を使つての攻撃と、三、四回の集中打で七点をとり、山口の攻撃も無得点に抑え、初戦を勝利で飾りました。

翌日、第二戦はレベルの高い四国

勢、香川県チームとだが、我がチームは監督の攻撃野球で前試合の勢に乗って楽勝と思つていたところが、白熱の投手戦となった。両者共走者を出すものの投手がよく抑え、守備も固く、得点がなかなか出なかった。香川は六回、ソツの無い攻めで一点先取。神戸はレフトフライで三塁走者がタックアップでホームへ、誰もが出ないがセーフと思ひ同点と踊り上がったが無情にもアウトのコール……アピールも空しく審判の判定は覆らず、惜敗だった。初出場ながら初戦を突破したチームなど、各地にはまだまだ素晴らしいチームがあるんだな、との大会関係者の話でした。

大会を通じて得た貴重な経験などを日頃の指導の中にも生かして行きたいと思ひます。

最後に、施設での多忙の中、練習に試合にと参加して頂いた選手はもちろん、気持ちよく送り出して下さった各施設の利用者、職員、施設長と関係者の方々に深く感謝を申し上げ、次年度優勝へ向けての糧にしたいと思ひます。

この大会は毎年開催され、本年は関東地区、来年は十回の記念大会で札幌の予定です。三年後の十一回大会は兵庫での開催を兵庫愛護ナイン一同切望していますので今後共皆様方の良き御理解と御協力の程よろしくお願い申し上げます。

松山市営球場にて

感謝状贈呈者

（2ページのつづき）

施設長・丸山克己（神戸みどり会自立訓練センター）三宅康市（加古川はぐるまの家）大久保茂男（三美学苑）

職員・酒井照美・伊敷美佐子（あけぼの学園）三輪千恵子（のぼら学園）永坂公則（もとやま園）河嶋良男・菅悦子（神戸光生園）辻田増男（伊丹市立あけぼの寮）奈良井利郎（名神あけぼの園）鈴木千津江（北山学園）平松禧天・松原信一・岩井清一・平塚利彦・川口精蔵・藤原学・前田多衛・杉山吉秋・南波春樹・谷岡和男・重島ハナ・安永成子・西森春子・新谷マツ子・吉川歌子・狭間裕子（砂子寮育園）小西美代子・福井美智子・大上千代子・鈴木美幸・（三田谷治療教育院）道北一夫・徳田哲・藤原石一・坂田光枝・西野章子・田中早苗・増田真智子・山崎恵子・寺田友枝・永井秀子・加藤恵美子・湊崎紀代美・山根行子・竹中文字子・橋本久子（出石精和園）足立喜久雄・広瀬晃純（三美学園）藤川勝（春日育成園）山田敏和・山田千代子・山本照子・山本恵美子（赤穂精華園）竹森宏江（つくし児童園）常石博信・藤本千鶴子（いちれつ学園）藤本照夫・三村吉子・藤井英子・松井洋子（ひのものと青年寮）大西よね子・小林まち子・南畝和枝（ふるさと寮）上村隆士（のぎく寮育園）宗美忠・萩原邦夫・小野澄枝・村上文子（姫路学園）大西百合子（高砂児童学園）岩下真理子（つつじ園）以上七十一名（順序不同）

「ケース記録マニュアルの実例」を刊行

神戸聖生園

開園以来、当園では処遇向上をめざしてその実践に当たり、処遇のあり方をなんとかマニュアル化しようと努めてきました。

授産施設の目的、役割は利用者の働く権利の保障を前提としながら職業能力の可能性を引き出すことや生活自立の訓練援助を各種の障害の治療や対人関係、環境適応について調整をはかりながらすすめていくことにあります。利用者一人ひとりの自己実現の場をつくりだし、自立援助を継続的かつ効果的に行なうには、利用者をとりまくいろいろな条件をふまえた上で、私たち職員の働きかけがどのような影響を与えているのかを見きわめていく必要があります。一人の人間にどれだけ関わられるかを基本的視点としつつ、利用者の人間性をはぐくんでいくため、施設処遇においてケースワークは重要なものなのです。

そしてその指導・援助のマニュアル化は利用者に対する専門技術の提供を公平にし、指導・援助の現場の処遇を一定水準に維持し、それらをベースに処遇の質的な向上をはかることを目的とします。

本書は、職員に多くの時間と労力と思考を必要とするケース記録を充実させ、日常、職員が取り組んでいる仕事の助けとなり、利用者の利益を守るのに役立つよう配慮しています。

また、指導・援助の過程を大切にしながら、目標実現のため入園から卒園までの利用者の医療、体力、社会性、身辺自立、家庭関係、職能評価、工賃配分、総合所見を半年毎に評価フォローするようになっていきます。さらに小グループ活動、肥満、自閉傾向者への対応なども補足しています。

まだまだ不十分なもので、継ぎ接ぎのものもありますが、本書が施設利用者の処遇向上に役立つように願っています。

また、今後も他施設の実践を学びながら、処遇向上に努めて行きたいと思っています。



私が「社会福祉士」になった理由

一羊園 指導員 芝 拓哉

私は昭和五十九年に大学を卒業して現在の職場に就職しました。勤め始めたその日から「先生」と呼ばれるようになりましたが、私はそのころに大変違和感を覚えました。なぜなら大学では日本文学を専攻していたので社会福祉の専門教育を受けたこともありませんでしたし、教員免許も取得していなかったからです。

もちろん日常の業務には次第に慣れていきましたし、利用者とも親しくなっていました。しかし、先生と呼ばれるからには、それだけのものを身につけなければならぬという焦りにも似た気持ちは返って増すばかりでした。そこで福祉・医療・教育関係の資格や講座をいろいろ物色してみましたが、どれも今ひとつしっくりきませんでした。

ところがある日、新聞で「社会福祉士及び介護福祉士法」の制定の記事を読み、またそれと時を同じくして出身大学の社会学部が社会福祉士養成校の指定を受けたことを知りました。「これだ!!」と思った私は、職場に休職を願い出て昭和六十三年に学士編入という形で大学に復学しました。そこで二年間、社会福祉関係の科目を学ぶ中で、自分がいかに

何も知らないまま仕事をしていたかということに改めて思い知らされました。

昨年二度目の学生生活を終え、職場に復帰し、同時に社会福祉士の国家試験にも合格しました。

しかし、残念なことに今のところ精神薄弱関係施設の生活指導員イコール社会福祉士という図式は成り立たないようです。なぜなら社会福祉士という資格はソーシャルワーカーとしての能力が問われるのですが、精神薄弱関係施設において専門的なソーシャルワークが実践されることはまだまだ稀だと言わざるを得ないからです。

けれども、八法改正にも見られるように、時代は福祉施設に地域社会における専門機関としての役割を期待し始めています。そうなれば精神薄弱関係施設でもソーシャルワークの能力が問われるでしょうし、またそうでなければ本当の意味での発展はあり得ません。福祉施設が広く一般地域住民から必要とされ、評価を受けることが結局のところ、利用者の幸福につながるのだという信念だけを頼りに、日々悪戦苦闘しているような次第です。

施設紹介

《精神薄弱者通所更生施設》
社会福祉法人

清流園

所在地 尼崎市西昆陽三―三九一―
電話 (〇六) 四三八―四七二―
設立 平成二年六月一日
定員 五〇人
施設長 田中 文一
職員数 一四人(嘱託医一人)



重度精神薄弱者のための更生施設設立を長年にわたり要望し努力してきた親たちの願いがかない、尼崎市当局をはじめ多数のご協力によりめでたく開園することができた。

通所施設の利点は、障害者が家庭の暖かさに包まれながら施設で専門的指導を受け、無理なく自立への訓練ができること。及び地域福祉の拠点として貢献できることだろう。この利点を目標として実践活動をしていきたいと願っている。

毎朝九時三十分登園 自力通園が目標だが大半は親が送迎 作業服に着がえた後朝礼、午前の指導がはじまる。十二時より給食 十三時十五分より午後の指導 十五時三十分降園 以上が一日の生活概要である。

指導内容は「生活指導」体操、トイレ指導、掃除、園外訓練、誕生会、クラブ活動(茶道、清流園祭等々、基本的生活習慣の確立を目指す。

作業指導 和紙製作、農耕、さをり織、下請け作業、調理実習等々 社会参加・働らく意欲育成を目ざす。

健康・安全指導 給食、交通安全、体の異常を訴える指導、衛生等自分の健康を自分で維持する精神を育てることを目ざす。

建物は新しいが備品も指導内容も不十分だ。先輩園から学びながら本園のカラーを創り、一日も早く地域福祉に積極的に貢献できる施設にしていきたいと願っている。

《日誌抄》

(ひょうご愛護ニュース34号以降)

7月19日 兵庫県精神薄弱者福祉大会

(明石市民会館)

7月20日 第三回県愛護役員会

(加古川はぐるまの家)

7月24日 調理部会研修会

(三木精愛園)

8月28日 近畿地区通信教育スクー

リング「舞子ピラ」

9月12日 全国職員研究大会

北海道旭川市 39名参加

9月21日 第四回県愛護役員会

(三美学苑)

9月26日 「愛護の集い」 舞子ピラ

10月12日 第五回県愛護役員会

(一羊園)

10月19日 第25回施設親善陸上競技

大会(明石公園陸上競技場)

11月16日 第6回県愛護役員会

(姫路ルネス・花北)

11月29日 中堅職員研修会

(ひふみ園)

12月5日 施設長会 出石学園参観

12月6日 「豊岡かんぽ」で研修会

12月12日 更生施設部会研修会

(姫路ルネス・花北)

1月18日 第七回県愛護役員会

(県民会館)

1月25日 四団体賀詞交換会

神戸東急イン

2月15日 第八回県愛護役員会

(さわらび学園)

2月22日 授産部会研修会

(兵庫障害者職業センター)

2月26日 施設職員研修会

(姫路市自治福祉会館)



◆あともがき◆

湾岸戦争が起り、世界の情勢が流動極まりない時になりました。日本丸の今後の世界での自己の位置付けが決定されるターニングポイントの様な気がします。この影響は長い時間をかけて我々の業界にも、押し寄せて来るでしょう。35号はブロック活動を中心に載せました。社会福祉士、マニユアルも見のがせません。